

# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2021年第6週 2021年2月8日（月）～2021年2月14日（日） 2021年2月18日作成

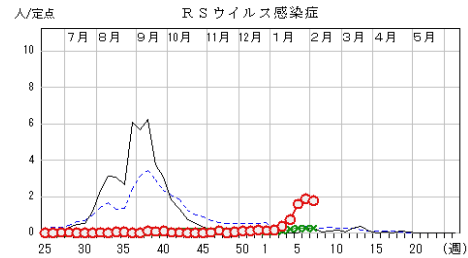
## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

### （1）RSウイルス感染症

第6週の報告数は78人で、前週より5人少なく、定点当たりの報告数は1.77であった。

年齢別では、1歳（38人）、2歳（16人）、1歳未満（13人）の順に多かった。

定点あたり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（8.17）、県南保健所（3.20）、県北保健所（2.67）であった。

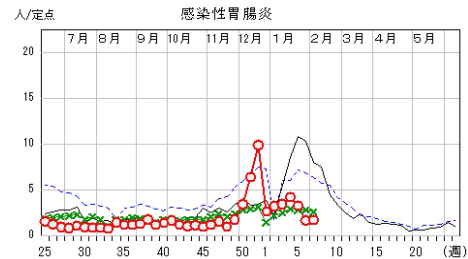


### （2）感染性胃腸炎

第6週の報告数は75人で、前週より2人多く、定点当たりの報告数は1.70であった。

年齢別では、1歳（15人）、10～14歳（11人）、20～29歳（10人）の順に多かった。

定点あたり報告数の多い保健所は、県南保健所（3.80）、県北保健所（2.67）、佐世保市保健所（2.33）であった。

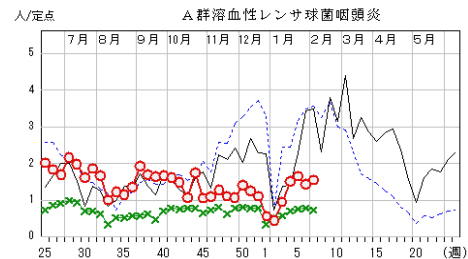


### （3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第6週の報告数は68人で、前週より5人多く、定点当たりの報告数は1.55であった。

年齢別では、4歳及び5歳（12人）、1歳及び10～14歳（9人）の順に多かった。

定点あたり報告数の多い保健所は、県央保健所（6.50）、県北保健所（3.00）、県南保健所（2.40）であった。



○—○ 当年(長崎県)      — 前年(長崎県)  
×—× 当年(全国)      - - - 前年(全国)

## ☆上位3疾患の概要

### 【RSウイルス感染症】

第6週の報告数は78人で、前週より5人少なく、定点当たりの報告数は1.77でした。地区別にみると、佐世保地区（8.17）、県南地区（3.20）、県北地区（2.67）は、他の地区より多くなっていますので、今後の動向に注意が必要です。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【感染性胃腸炎】

第6週の報告数は75人で、前週より2人多く、定点当たりの報告数は1.70でした。地区別にみると県南地区（3.80）、県北地区（2.67）、佐世保地区（2.33）は他の地区より多くなっていますので、今後の動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第6週の報告数は68人で、前週より5人多く、定点当たりの報告数は1.55でした。地区別にみると県央地区（6.50）、県北地区（3.00）、県南地区（2.40）は他の地区より多くなっていますので、今後の動向に注意しましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

★トピックス：RSウイルス感染症が増加しています

- 小児に重度の呼吸器疾患を起こすウイルスです。
- 感染者の咽頭分泌液中に排泄されるウイルスが飛沫感染や接触感染により伝播します。
- 冬に流行する感染症です。今年は例年より少し遅れて1月から2月かけて患者数が増えている状況です。
- 年長児や成人では鼻かぜ程度です。乳幼児（特に1歳未満）では発熱をともなう上気道炎の他に、細気管支炎、肺炎などの重症の下気道感染症を起こします。なかでも重要なのが細気管支炎で、細気管支粘膜の炎症で生じた浮腫などにより細気管支が詰まってしまう疾患で、喘鳴や咳があり、呼吸困難になって重症となることがあります。通常は1週間から10日で軽快します。
- ワクチンや有効な抗ウイルス薬はありません。
- 流行時の予防対策が重要です。大きな呼吸器飛沫と呼吸器からの分泌物に汚染された手指や物品を介して感染します。一般的な予防策である手洗いとうがいを丁寧に行いましょう。

グラフ. 長崎県の定点当たりの報告数

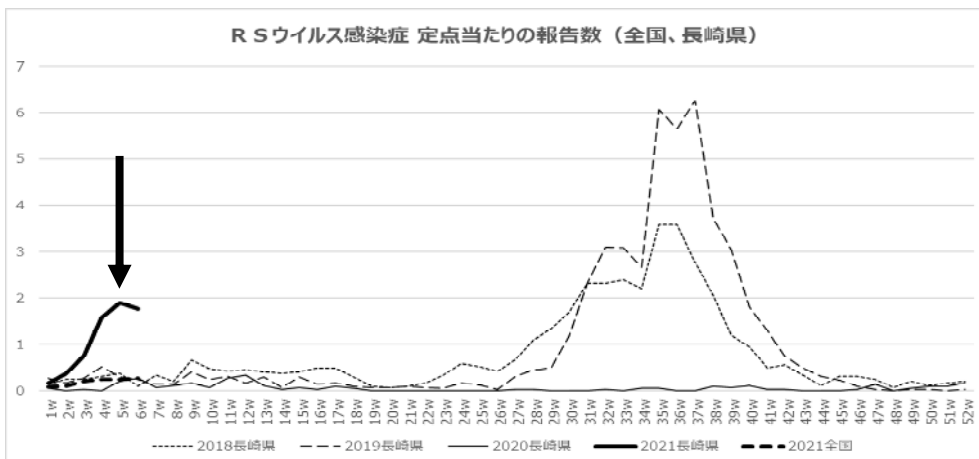


表. 保健所別定点当たりの報告数

	1w	2w	3w	4w	5w	6w
長崎市	0.10	-	0.20	0.30	-	0.20
佐世保市	0.50	-	1.17	5.17	5.83	8.17
西彼	-	-	-	-	-	-
県央	0.33	2.17	3.50	-	0.67	0.33
県南	0.25	0.75	-	2.75	4.60	3.20
県北	-	-	0.67	7.67	6.00	2.67
五島	-	-	-	-	-	-
上五島	-	-	-	-	-	-
杵岐	-	-	-	-	1.50	0.50
対馬	-	-	-	-	-	-

グラフ. 患者年齢別

